

ILSI Japan 活動報告<2021>

バイオテクノロジー研究会

1, 2 月	特に進捗なし。
3, 4 月	<p>3 月 9 日に第 1 回目会議を開催（リモート会議）</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 55 号の勉強会：10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 <p>(2) 報告</p> <p>以下の 4 点について報告された。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① J. Regulatory Science に掲載された組換え作物の安全性評価に関する論文の ERA 報告書での紹介について ② 遺伝子組換えナタネの ERA に関する研究成果の発表及び ILSI Japan バイテク研究会としての周知に関する提案 ③ 橋本名誉研究会長の ISO/TC34 国内対策委員会委員再任の件 ④ バイオテクノロジー応用微生物を利用して発酵生産された食品添加物・食品等の安全性審査に関する WS 準備状況 <p>(3)その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくば機能植物イノベーション研究センターの全国共同利用・共同研究拠点継続に関するサポートレターの件、理事長交代の件 等について報告された。
5, 6 月	<p>6 月 14 日に第 2 回目会議を開催（リモート会議）</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 56 号の勉強会：10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 <p>(2) 報告</p> <p>以下の 4 点について報告された。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 事務局長のご交代について 辻本事務局長よりご挨拶いただいた。 ② 「ILSI 北米支部の離脱に関するトーキングポイント」の説明 事務局より北米の現状をご説明いただいた。 ③-1 ILSI ERA ワークショップ 2021 の概要の紹介がなされた。 仮題) 遺伝子組換え作物の ERA に関する現状と課題 候補日：9 月 21 日午後 主催：ILSI Japan、開催方法：オンラインによるウェビナー形式 ③-2 遺伝子組換えセイヨウナタネのほ場試験の論文文化 (日本の栽培環境におけるファミリアリティの確立、隔離ほ場試験の DT について考察) 合計 8 系統 (カルタヘナ施行前) のデータも含めると合意されたことが報告された。 ④ バイオテクノロジー応用微生物を利用して発酵生産された食品添加物・食品等の安全性審査に関する WS 準備状況が報告された。 リモート開催：2021 年秋を予定 開催規模：30~40 人 <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「イルシー」誌 148 号に小口先生 (ゲノム編集の届出制度の議論)、江面先生 (GABA

	高蓄積トマト) に寄稿いただくことが報告された。
7, 8 月	特に進捗なし。
9, 10 月	<p>■9月2日に第3回目会議を開催 (リモート会議)</p> <p>(1) ERA プロジェクト調査報告書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第57号の勉強会：10報の論文をレビューし、意見交換を行った。 <p>(2) 報告</p> <p>以下の4点について報告された。</p> <p>① ERA 報告書 J. Regulatory Science に発表された論文 について、育種学研究に掲載された解説記事の紹介も含めて紹介がなされた。</p> <p>https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsbbr/advpub/0/_contents/-char/ja</p> <p>② ILSI ERA ワークショップ 2021 の概要の紹介がなされた。</p> <p>仮題) 遺伝子組換え作物の ERA に関する現状と課題</p> <p>日時：9月21日午後、</p> <p>主催：ILSI Japan、</p> <p>開催方法：オンラインによるウェビナー形式、</p> <p>の準備状況について報告がなされた。</p> <p>③ バイオテクノロジー応用微生物を利用して発酵生産された食品添加物・食品等の安全性審査に関する WS 準備状況が報告された。</p> <p>■国際的なリスク評価方法から考える日本の生物多様性影響評価とデータトランスポートビリティを 開催</p> <p>開催日時：2021年9月21日火曜日 14:00-17:30</p> <p>Teams 会議 (Web 会議) オンライン参加 51 名、会場 9 名</p> <p>産学官合わせて 60 名が参加し、質疑応答や意見交換を通して生物多様性影響評価の考え方及び隔離ほ場試験のデータトランスポートビリティの考慮点等に関して活発な議論が行われた。</p> <p>総合討論では、データトランスポートビリティの条件に関して、日本の環境で想定されるリスク仮説が存在しない場合には、海外で行われた隔離ほ場試験のデータトランスポートビリティが可能だとする見解が概ねであった。また、隔離ほ場試験における試験項目の科学的妥当性についても、データトランスポートビリティの条件と共に、今後検討する必要性が示唆された。</p> <p>プログラム概要は以下</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本における遺伝子組換え作物の生物多様性影響評価 (ERA) (筑波大学 生命環境系 教授 佐藤 忍 先生) ・Anderson et al. (2021) を通して考える「問題の定式化」に基づく生物多様性影響評価 (ILSI Japan 柳川 拓志) ・Bachman et al. (2021) を通して考える「問題の定式化」と隔離ほ場試験のデータトランスポートビリティ (ILSI Japan 高本 圭) ・総合討論「問題の定式化に基づく ERA」を通して以下を討論する <ol style="list-style-type: none"> a. 「日本の生物多様性影響評価法」のあり方 b. 隔離ほ場試験のデータトランスポートビリティの条件 (筑波大学 生命環境系 教授 大澤 良 先生 教授 佐藤 忍 先生)

11, 12 月

■12月15日に第4回目会議を開催（リモート会議）

(1) ERA プロジェクト調査報告書

・第58号の勉強会：10報の論文をレビューし、意見交換を行った。

(2) 報告

以下の4点について報告された。

① ILSI Japan 理事会について（辻本事務局長）

② 部会長会議およびFY22活動案について（加村氏）

③ バイオテクノロジー応用微生物を利用して発酵生産された食品添加物・食品等の安全性審査に関するWS開催報告（川田氏、加村氏）

④ 2022年4月ISBRへのILSI Japanとしての参画について（中井氏）

■「バイオテクノロジー応用微生物を利用して発酵生産された食品添加物・食品等の安全性審査」を開催

開催日時：2021年11月5日金曜日 14:00-17:10

Webex 会議（Web 会議）参加 118 名

産学官合わせて118名が参加し、質疑応答や意見交換を通して遺伝子組換え微生物を利用して生産された添加物・食品等のリスク管理ならびに安全性評価について厚生労働省、内閣府食品安全委員会より説明。さらに明治大学中島先生から最近の安全性評価の現状について、およびILSI Japanを代表して卯津羅氏より食品加工用酵素の使用の現状を共有。遺伝子組換え微生物を利用した食品・添加物に係る制度・安全性評価に関し、産官学が相互に課題を認識することができた。

プログラム概要は以下

- ・ 遺伝子組換え微生物を利用して生産された添加物・食品等のリスク管理の紹介
（厚生労働省医薬・生活衛生局食品基準審査課新開発食品保健対策室 豊田 美紀 主査）
- ・ 遺伝子組換え微生物を利用して生産された添加物食品等の安全性評価基準の概説
（内閣府食品安全委員会事務局評価第二課 新食品等係 山口 洵 係長）
- ・ 最近の審査の現状について
（明治大学 中島 春紫 教授）
- ・ 食品加工用酵素の使用の現状
（ILSI Japan/長瀬産業株式会社 卯津羅 健作 氏）
- ・ 総合討論
（情報提供 日本酵素協会 幹事 高橋氏）